

'71

会報



THE ROTARY CLUB
OF TSURUOKA

鶴岡ロータリー

第 584 号

1971.1.5 (火)

例会場 鶴岡市本町二丁目 ひさごや

事務所 鶴岡市馬場町 商工会議所内 ☎ 5775

四つのテスト

—言行はこれに照してから—

1. 真実か、どうか
is it the truth?
2. みんなに公平か
is it fair to all concerned?
3. 好意と友情を深めるか
will it build goodwill and better friendships?
4. みんなのためになるかどうか
will it be beneficial to all concerned?

〆隔りを取り除こう〆

芳網恵美子様、谷口美代子様、
高橋美津子様、津田満里子様

出席報告

本日の出席 会員数 62名
出席数 47名
出席率 75.81%

欠席者 阿宗君、荒明君、長谷川(文)君
橋浦君、平田(圭)君、粕川君
加藤君、金野君、嶺岸君、三
井(徹)君、三浦君、三井(賢)君
齋藤(信)君、佐藤(昇)君、笹
原君

前回の出席 前回出席率 73.02%
修正出席数 50名
確定出席率 79.37%

マークアップ 林君—東京城北RC
阿宗君—新庄RC
藪田君—天童RC
三井(健)君—鶴岡西RC

会員誕生

海東与蔵君、今間壮太郎君、三井健君、
芳網末松君、佐藤伊和治君

奥様誕生

荒明喜代野様、池内俊様、五十嵐とし様、

年間皆出席

張 紹淵君 11年間皆出席
鷺田克巳君 10年間皆出席
三井 徹君 10年間皆出席
嶺岸光吉君 10年間皆出席

12月100%出席者 43名

阿宗君、阿部(公)君、阿部(襄)君、安藤君
張君、長谷川(悦)君、早坂(源)君、早坂
(徳)君、林君、飯白君、池内君、石黒君、
五十嵐(三)君、五十嵐(伊)君、五十嵐(八)君
伊藤君、海東君、金井君、上林君、黒谷君
小花君、小池君、今間君、嶺岸君、三井
(徹)君、三井(賢)君、三井(健)君、小野寺君
大川君、廖君、齋藤(得)君、佐藤(伊)君、
佐藤(忠)君、鈴木(善)君、新穂君、鈴木
(弥)君、高橋君、手塚林治君、津田君、富
樫君、上野君、鷺田君、藪田君

会長報告

ロータリーの年度も恰度半分過ぎて、これ
から下り坂になり、少しはほっとしております。

会報はご家族みんなで読みましょう

新年勿々の新聞などをみますと、3日に最初出てきたのはレイオフという私にとって新しい言葉があり、即ち就職のUターンというのでした。中央の企業に折角就職されたけれども、レイオフで、家で待機していれという企業が出没しているらしいので、今年度の就職も仲々厳しいような感じがいたします。

ロータリーとしては、前半は地区大会、クリスマス家族会、ガバナーの公式訪問等などあって、クラブ内のことに手が廻りかねましたが、1月から半年の間は何とかクラブの中のことに少し努力して、年間通じたバランスをとって行きたいと思っておりますのでよろしくご協力ねがいます。

クリスマスカードが台南ロータリークラブとダウンブリロータリークラブ、それに旅河氏と鶴岡地区のBBSから年賀状がきていますので回覧いたします。

次にロータリーの友1月号の31頁にもっておりますが、ロータリーの日本50年史が発刊になります。一部2,000円でクラブ単位でまとめて注文して欲しいとのこと。別の書面によりますと大会員数の1割位は用意したいので、(これ位発行部数が出ないと2,000円ではあがらない)クラブ会員の1割位の方々から申し込んでいただきたいとのこと。

必要の方は、雑誌委員会できりまとめねがいます。

それからバスタガバナーの穴沢養一さんが続音楽医者放談という書名で、アメリカに合唱団を引率なされたときの体験記録の本が、ロータリークラブに一部寄贈されて届いております。会員の方で入用の方は、クラブでまとめて申込むことになっております。一部500円です。これも雑誌委員会できりまとめねがいます。

次いで、今年は恰度亥年にあたり、会員のなかで亥年生れの方を調べたところ、鷺田さん、石井さん、池内さん、それから一まわり下で小花さん、中山さん、また一まわり下で佐藤忠さん、高橋正太郎さんの7名の会員がおります。新春でもありますので、今年エトに当たっている方の新春放談といえますか、お話を承りたいと存じます。

亥年生れに因みて 池内方平君

今年のトップバッターとして、亥年生れであるということで、ここに立ったわけです。

先程会長さんから話があったように、私と石井さんと鷺田さんが明治32年生れ、当年とって71才となります。次の亥年が明治44年生れで、小花さんと中山さんがこれにあたります。それから大正12年の亥年が佐藤忠さんと高橋正太郎さんです。

猪という動物は、皆様御存知の通り賢い動物かどうかはわかりませんが、兎に角愛嬌のある動物であることはたしかと思えます。猪に関しては幾多の言葉があります。例えば猪突猛進という言葉、これは猪に関する代表的な言葉と思えます。それから猪武者、それから猪食ったむくい、これは相当深い意味があるようです。また亥年生れの人に食いつばぐれがないという言い伝えもあります。これはどこからきたか知りませんが、割合に生活が保証されているという極めて近代的な文化的な立場にある生れだと考えます。

私の会社内のことを言って申訳ないのですが、会社内に従業員が62~63名おり、その中で亥年生れが13名おります。親仁が亥だから子供も亥が集ってきたのでないかと昨日私は朝の出初めにしゃべったのですが、それにしても2割以上の亥年生れがいたことに愕然としたのであります。

何で亥年生れが沢山集っていたかを調べてみますと、過去5~6年を振り返って、やめて行った連中の生れ年を調べると、亥年生れは一人もおりませんでした。入ってきて、出るのがいなければ、ふえるに決っております。それが亥年生が63名中13名もいるということにつながるのではないかと思います。

そうしますと、亥年生れの連中は、割合に定着性がある人種といえます。

現在の我が経済界においては、労働力の確保が非常に重大な問題であります。採用しても定着性がない、1年や2年ですぐやめて大きな費用をかけても意味ないという点から考えますと、定着性のある亥年を探ることが極めて重要と思えます。

今年の3月卒業するものとは合わないと思いますが、亥年生れを採用しておけば定着性が強いということは、私の会社の実績からみて決して過言ではないと思えます。

私が子供のときに、次のような話をききました。猪を獲るには綱一本あればよいとのことです。綱一本引張っておいて、片一方から猪を追いますと、猪はそれに向かってどんどん走って行く。綱にぶつかりますと、綱をのり越えて行くことなしに、右か左の何かに添うて走るとのことです。綱の両端で待機しておれば猪が集ってくるのです。猪を獲るにはこの方法が一番たやすく獲れると聞いております。即ちそれほど猪は単純で猪突猛進であると考えられます。

猪突猛進ということは、古い言葉で最近出来は言葉ではありません。猪突猛進を現代語に直しますと、行動形と表現されるではなからうかと思えます。私は、この行動形の猪突猛進、行動形の性格というものは、今年のように日本経済がどうなるかわからないときに我々は先を心配ばかりせずに、行動形にうつってこの難局を切りぬけるということが非常に大切でないかと思う次第であります。従って、新しい年を行動形に切替えて難局を突破するのが今年の私共に課せられた心構ではないかと思うのであります。

亥年に因みて 石井貞吉君

池内さんのお話に関する事で、此の間新聞をみたら福島県で20余年間猪を獲った人がその獲り方について書いておりましたが、今のお話にぴったりと合致します。猪を2匹の犬で追わせると、がむしゃらに猛進するそうですが、案外長続きしないで途中でぐたぐたと疲れるとのことです。

そのとき犬で追わせた人が、新田四郎のように猪にまたがって、短刀をもって喉元に突き刺し、このようにして現在まで数百頭を捕えたとのことです。

以上池内さんのお話に附言いたします。

亥年に因みて 五十嵐一郎君

私は亥でなく寅年生れですが、今池内さんのお話に関連したことを新聞で見ました。ということは、今お話があったように猪というのは、猪突猛進とか猪武士というように、案外知恵が足りないもので、人を馬鹿にしたような言葉が多いようです。然し猪が芋畑を荒す行動をつぶさにみていると、雌雄二匹に幼猪連れて下ってきて、雄親が充分周囲を警戒し

大丈夫と思うと雌を連れて畑にくるとのことです。

そして2匹が鋭い牙と強靱な鼻先で、恰度ブルトナーのように真直に畑を掘りおこすとのことです。その後子供づれでいい芋を食べさせてさっと引上げるとのこと。如何に能率的で頭がよいかわかります。猪の為に弁明しておきます。

亥年のことと会員アルバムについて

張 紹淵 君

猪のお話を続けて申し上げます。池内さんのお話によると、猪は愛嬌があると云われますが、私はどうもおおっかなくて恐いような感じがいたします。猪の牙をみるとぞっとします。それはどういうことかという私が台湾にいたときに一回猪会で小爺さんと山に行ったことがあります。猪はおとなしいようで勇敢だけれども、つつましくかかっているように感じました。即ち私がみた猪は皆さんのお話に出てくるものもちがったものでしたので一言ふれておきます。しかし一たん猪が怒ったらトコトンまでやっつけてやるというファイトがあるときいているので猪は大へんいいでないかと思えます。

そう云ったことで、皆さん益々ファイトをもやして、どこまでも自分の職業に奉仕して繁栄成功を祈ってやみません。

それから、過般開催されたファイアサイドミーテングの折に、出席者の中から私に対し会員の顔を写真に撮ってアルバムにしようという提案がありました。

しかし考えてみるとそれだけではあまり意味がないので、私の希望としては様々に考えておりますが皆さん如何でしょうか。

即ち家族を含めた写真を各自出していただいて、それをアルバムとし、これを回覧してこれはわがロータリークラブの各家族のアルバムだという印象を残し、更にこれをクラブに保存し、必要のときはいつでも引き出せるようにし、或は複製をつくり、新米クラブなどに送って挨拶の一端としたらと思っております。どうぞご検討ねがいます。

干支について 石井貞吉君

ここにお集りの方々は十二支の何れかのように生れた方ばかりです。さて皆さんの前で

斯様なことを申し上げるのは痴がましいのですが、十二支物語という本がエビスヤさんで販売しております。2、3年前にこれを読んでみますと十二支について大へん面白く書かれております。参考までに一言ご紹介申します。(以下小池会長補足)この本の著者は、大漢和辞典の編集者で文化勲章受章者でもある諸橋轍次氏で、本は対談形式になっております。十二支物語というよりも十干十二支というものがどうしてこの世の中に出たのかということ、それが中国では時刻を表わすのも十干十二支、方角も十干十二支、曜日也相当する甲(きのえ)乙(きのと)等12と10の倍数(公約数を含む)またその回り合せで方角と時刻と曜日の全部を表すということが最初に書いてあります。次に一つ一つの十二支の動物を諸橋さんが(漢学者なので)象形文字から解きおこして、それから子(ね)であれば鼠の故事来歴や物語などが書いてある本です。一冊500円位の価格でないかと記憶しております。

阿部襄先生の著書の紹介 小池会長

前に出版なされた「貝の科学」という本は全日本図書館の青少年選定図面になった本ですが、此の度出された(出版後1ヶ月位経つ)「吉林の終戦」という本、おそらくは先生のことをご自分で書かれたのだらうと思います。梗概のところには、引揚げてきた大学教授のことを自分が聞いて書いているから明白とは云えないが、おそらく御自分の体験を第三者として書かれたのでないかと思いがら読みました。ここで先生の新著「吉林の終戦」をご紹介いたします。

阿部 襄 君

唯今は不十分な著書を紹介していただき、大変恐縮でした。この本は中学生向きに書いたもので、皆さんがお読みになるには少し物足らなすぎだと思います。若し御希望がございましたら、手許にも若干ありますので進呈申したいと存じます。

次に青少年委員会の活動報告を申し上げます。昨年も皆さんのお蔭で、青少年委員会として、ボランティアの集いをいたしました。これは12月27日に本年度の第1回の催として山形大学農学部で行いました。各高校の社会奉仕サークルの会長副会長の新旧の方、大体

1サークル5名位で25名ほどの人が集まりました。そこで、いろんな問題についてお話し合ったのですが、その席には小花先生からもお出でになっていただき、青年の森のお話をさせていただきました。高校生等が非常に喜んで是非そういう行事に協力して、植樹なり根切りなりいたしたいとのことでした。あとで雑談などもありましたが、その折も生徒諸君が大変喜んでおりました。それから三井徹先生からもお出ましをいただき、ローターアクトのお話をさせていただきました。ローターアクトも、社会奉仕サークルのOBがおり、鶴岡在住の方達に呼び掛けなどすれば、その場の雰囲気としては、当地区にローターアクトも出来る緒が開けたようで、三井先生からローターアクトのお話をさせていただき幸に思いました。

なお2回目のサークルの集いは、2月に開催したいと思います。それについては前もって皆さんにご連絡いたしますので、都合のつく方々がお出ででしたら御出席願えれば大変有難いと存じます。

幹事報告

会報到着 八戸東RC

例会変更 温海RC

1月18日(月) 新年家族会

登録 PM4.30~PM5.10

終了 PM7.30

会場 観光ホテル「泉荘」

会費 会員 2,000円

成人ご家族 1,500円

(含高校生)

中学生以下 1,000円

1月10日まで事務局へ申し込みのこと

山形RC 1月6日 PM6.00 新年会
しょう月

山形西RC 1月11日 PM5.30

クラブ協議会 しょう月

チャーターナイトの案内

湯河原南RC 3月7日(日)

湯河原中学体育館